

東日本大震災で被災した海岸防災林を 加治屋農林水産副大臣が視察

加治屋農林水産副大臣が4月19日に宮城県仙台市に赴き、東日本大震災の津波で被災した海岸防災林の復旧・再生の状況を視察しました。



林野庁による海岸防災林復旧事業（仙台市若林区荒浜）の状況を視察する加治屋農林水産副大臣（写真左）

現地では、生育基盤の盛土工事が終了して抵抗性クロマツを植栽した箇所を視察し、東北森林管理局の職員から海岸防災林の役割や仙台湾沿岸の被災状況、海岸防災林の再生方針について説明を受けました。

また、同日に行われた「日本の森を守る地方銀行有志の会」が主催する『日本の森を守る東北サミット』に出席し、植樹を行うとともにオープニングセレモニーで挨拶しました。

被災した海岸防災林のうち国有林の一部では、公募による協定方式で民間団体と連携した森林づくりを行うこととしており、仙台市若林区荒浜地区の1.72haを対象として、「日本の森を守る地方銀行有志の会」を含む14団体と本年2月に協定を締結しています。

4月19日に行われた同会の植樹もこの一環であり、現地では各団体に割り当てられた区画で次々に植樹活動が行われています。



今後、5月から6月にかけて14団体の全てが植樹を行う予定です。

植樹式（仙台市若林区荒浜）に出席する加治屋農林水産副大臣（前列右から4番目）

林業体操

仕事中の怪我の防止や疲労回復を目的に、体操を取り入れている職場も多いのではないのでしょうか。

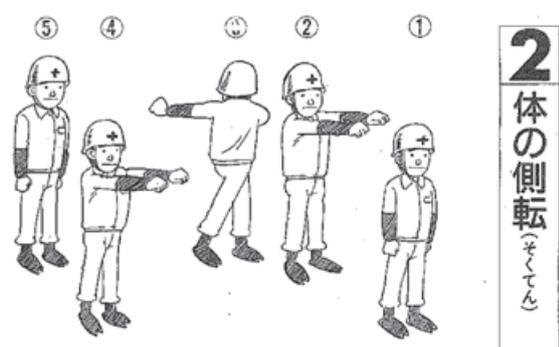
代表的なものは「ラジオ体操」（農林水産省本省内もこれ）だと思いますが、森林管理署等の国有林野事業の現場で取り入れられているのが「林業体操」です。

国有林では、昭和41年（1966年）から正式に取り入れられている由緒正しい体操で、東京工業大学の教授であった塩谷宗雄氏が考案したものです。

塩谷教授は、1970年代に一世を風靡したぶら下がり健康法を考案された方としても知られ、様々な職種に合わせた体操を考案されており、林業体操も身体の特定部分に負荷がかかり、傾斜地での作業が多いという特徴を考慮した内容になっています。

インターネット上では、若干幻の体操扱いされているようですが、今も国有林の現場では体操と言えば林業体操です。

林野庁 プレスリリース	
4月1日	第23回 森と花の祭典-「みどりの感謝祭」の開催について
4月1日	東日本大震災について～農林水産関連施設の復旧・復興のための技術者派遣について～
4月9日	「地熱発電シンポジウムin札幌」の開催について
4月12日	外国資本による森林買収に関する調査の結果について
4月16日	「林政審議会」の開催及び一般傍聴について
4月16日	木材利用ポイント事業における交換商品及び提供事業者の募集について
4月18日	加治屋農林水産副大臣の国内出張について
4月19日	第7回「みどりの式典」の開催と「平成25年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の受賞者の決定について
4月30日	「富士山」の世界遺産一覧表への記載推薦に関するイコモスの評価結果及び勧告について（速報）



林業体操の解説の一部

2
体の側転
(そくてん)

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。